

## 第一次世界大戦の終戦から100周年、各国元首がパリに集結

---



11月11日（日）、第一次世界大戦（la Première Guerre mondiale）の戦没者追悼式典がパリの凱旋門（l'Arc de triomphe）で行われました。今年は1918年11月11日の第一次大戦休戦協定（l'Armistice）の締結から100周年にあたります。（画像は[Le Figaro.fr](https://www.lefigaro.fr)からお借りしました。）

### 1918年11月11日から100年

---

7000万人の戦士を悼むため、米トランプ大統領や露プーチン大統領を含む72カ国の国家元首が参加しました。独メルケル首相も列席し、これは終戦後初めての事でした。

### 記念行事の外交的な意味

---

マクロン大統領は約20分のスピーチを行い、その中で「犠牲者の記憶が、我々のために亡くなった方々の証となることを忘れてはならない。このことを思い起こしましょう」と述べました。

また、スピーチには「パトリオティズム（愛国主義）はナショナリズム（国家主義）とは対極にあります。ナショナリズムとは裏切りのことです」という一節もありました。とりわけマクロン大統領の頭にあったのは、ナショナリズム（国家主義）の動きにさいなまれる各国の現状です。

Emmanuel Macron : "Additionnons nos espoirs au lieu d'opposer nos peurs"  
[pic.twitter.com/PuX2d63RPJ](https://pic.twitter.com/PuX2d63RPJ)

— BFMTV (@BFMTV) [2018年11月11日](#)

スピーチは世界大戦の追悼のみならず、各国のリーダーへの外交的なメッセージという意義もありました。

出席したトランプ大統領やプーチン大統領、トルコのエルドアン大統領はマクロン氏のメッセージをどのように受け取ったのでしょうか。

## 同時に開催されたパリ平和フォーラム

---

11日の記念式典の後には、パリ19区のラ・ヴィレット大会議場(La Grande Halle de La Villette)にて「平和のためのフォーラム(Forum pour la paix)」が開催され、ここでも各国の国家元首による意見交換が行われました。

しかし戦没者追悼式典には出席したトランプ大統領の姿はなく、仏米関係の不調和な様子が示されました。

執筆あお

オンラインフランス語学校

# ENSEMBLE EN FRANÇAIS

アンサンブルアンフランセ

オンラインフランス語学校アンサンブルアンフランセは、プロの講師によるマンツーマンのスカイプレッスンが1回1500円～受講できます。いつでもどこでも手軽に受講できる利便性と生徒一人一人にカスタマイズされた質の高いレッスンが好評です。

